

# シェアハウス 会話は英語

## 熊本高専(合志市)が国際寮

熊本高専は7日、留学生の受け入れ拡大と、グローバルな視野を持って活躍できる技術者の育成を目指し、シェアハウス型の「国際寮」を合志市須屋の熊本キャンパスに新設すると明らかにした。運用開始は2021年7月(ころ)の予定。

日本人の在留生と外国人留学生が、共同生活を通じて語学力やコミュニケーション力を高め、世界に目を向ける意識を育てる狙い。国立高等専門学校機構(東京)が、全国51国立高専のうち熊本を含む17高専に設置する。情報通信技術(ICT)の

発展に伴う技術者不足を背景に、5年間で技術者を養成する高専の一貫教育制度をアジアの国々が評価。2014年以降、モンゴルやベトナム、タイの3カ国で計6校が開校し、2校を整備中という。日本の高専へ2カ月〜半年間の短期留学を希望する学生も増



シェアハウス型「国際寮」の交流スペースのイメージ (熊本高専提供)

## 日本人在留生も受け入れ 来夏新設

えているという。一方、同キャンパス学生寮の短期留学生の定員は10人。年間の受け入れ数も約20人とどまっていた。

国際寮は定員68人。同キャンパスの敷地北側に整備し、鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積1510平方メートル。個室6〜7室が交流スペースを囲むシェアハウス型の計10区画用意する。イスラム教の戒律に沿ったハラール対応のキッチンも設ける。9月に着工し来年3月完成予定。

寮では日本人学生も受け入れ、英語を共通言語にする方針。熊本高専は「今は新型コロナウイルスの影響で短期留学生の受け入れが止まっているが、低学年から国際交流を深められる環境にしたい」としている。(木村恭士)



シェアハウス型「国際寮」の外観イメージ (熊本高専提供)